



第85号

発行 兵庫県立神戸特別支援学校
編集 総務部広報係

〒651-1144 神戸市北区大脇台10-1



「学校での学び」

校長 陶山 浩

今年も同じように花が咲き、同じように鳥がさえずり、同じように季節が移り変わっています。しかし、今年は少しだけ違った様子が目の前に広がっています。新年度になっても学校に登校できず、クラスメート全員となかなか会えず、先生たちと大声で笑ったりできない日々が続きました。

やっと7月から平常授業になりますが、さまざまな学校行事が中止になったり、

変更になったりしています。でも、登校する児童生徒の姿は、楽しさに満ちあふれています。やっぱり学校は児童生徒が主人公なので、主人公の姿や声がない学校は不自然な感じがします。

「学校」を意味する英語「school」の原義は、ギリシア語の「余暇」を意味する「scholē」に由来していると言われています。古代ギリシア・古代ローマの市民が、音楽、スポーツ、芝

居、議論などを楽しむために過ごす、「暇つぶしのための時間や場所」を表す言葉でした。

私の大好きな歌の一つに、やなせ たかしさん作詞の「アンパンマンのマーチ」があります。かっこ悪いヒーローなのに、何のために生きるのか？周りの人も幸せにするというフレーズが感動します。一部ですが、紹介します。

「なんのために生まれて

なにをして生きるのが ことえられないなんて そんなのはいやだ！ 今を生きることで 熱いところ燃える だから君はいくんだ ほほえんで そうだ うれしいんだ 生きるよろこび たとえ胸の傷がいたんでも ああアンパンマン やさしい君は いけ！ みんなの夢 まもるため」

県立神戸特別支援学校での学校生活で、それぞれの「学び」を全うできるよう、教職員一丸となって皆さん一人ひとりの学びを実現するために取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小学部 訪問学級

体調面の事情で毎日登校することが難しい児童が、週に2～3日、自宅で学習しています。現在、小学部6年生の児童が1名在籍しており、痰の吸引など医療的なことを保護者に協力していただきながら学習しています。

1日の流れは、「体調確認、身体のゆるめ、朝の会、学習活動1、休憩、学習活動2、終わりの会」です。絵本や歌、ふれあい遊びなどを楽しんだり、いろいろなものを触って作品を作ったりして、少しずつ経験を積み重ねています。学校行事や学部活動なども、友だちの様子を映像で見たり聞いたりしています。出会ったことがある友だちや先生の

顔や声に笑顔になることもあります。

昨年度は、しあわせの村での野外学習に参加し、学校の友だちと一緒に、しゃぼん玉やダンス、パラバルーンなどの活動を楽しみました。風やバギーの揺れ、友だちからの声かけに、にこにこ笑顔になり、とても嬉しそうでした。

今年度は小学部最後の年になるので、楽しい思い出をたくさん作りたと思います。

新型コロナウイルス感染症拡がる！

謎の多いウイルスですが、潜伏期間は1～14日、飛沫や接触によってうつるようです。無症状の人もいますが、1週間程度は風邪のような症状、重症化する場合はそこから肺炎の症状が強くなるようです。味覚障害を訴える患者さんも多いそうです。

昨年末に発生し、今年1月頃から中国の武漢市で流行し、世界中で1140万人以上が感染し53万人以上の方が亡くなっています。日本では、1月15日に国内最初の症例が報告され7月4日現在で感染者19,282人、死亡者977人となっています(厚生労働省発表)。兵庫県では、最近の新規感染者は0～2人/日ですが、感

染者総数は710人になっています。

本校も、3月3日から臨時休業。卒業式は実施しましたが、在校生は列席せず、簡素な式でした。4月、新学年が始まると意気込んでいましたが、4月7日に緊急事態宣言が出され、入学式も入学説明会という簡素なものになりました。どの学年も、1回顔を合わせただけで臨時休業になりました。6月1日から分散登校が始まり、6月17・18日に久しぶりにクラス全員がそろいました。

感染予防のために、『3密』という言葉がよく使われます。『新しい生活様式』の定着が必要だと言われて

令和2年度神戸特別支援学校紹介

小学部

新入生4名、転入生3名を迎え、31名で新年度をスタートしました。訪問学級1クラス、本校6クラスの

それぞれの課題に応じた学習活動の更なる充実を目指しています。

小学部では「身のまわりのことがらを自分でしようとする力を養う」「のびのびと動けるすこやかなからだをつくる」「いろいろなはたらきかけを受け入れ、自分からはたらきかけようとする心を育てる」の3つの目標を掲げています。毎日の生活はクラスを基本集団としていますが、学習によっては学年を越えてグループを組んだり、低学年と高学年に分かれたり、小学部全員で学習したりします。落ち着いた雰囲気の中

で課題に取り組む、友達同士関わって学びを深める、大勢でダイナミックに活動する、そのどれもが大切な活動であるにとらえています。

また、これらの基礎となる人間関係を築く力を養うことを目標とし、子ども達が安心して人と関わるができるようになったり、一緒に活動することが楽しいと感じられるようになったりできるように支援していきます。本年度は、近隣や居住地の小学校との交流、地域の方々との交流を例年のように実施することが難しいですが、新しい生活様

式の中で、どのように人間関係を築き、広げていくことができるのかも模索していきたいと考えています。また、個に応じた支援を受けて心豊かに生活することができる、それぞれの「自立」という目標を見据えて、将来につながる学習を積み重ねていきます。

中学部

今年度は、10名の新入生を迎え、総勢47名でスタートしました。

本年度より中学部の教育目標を刷新しました。「身辺自立と社会生活に必要な基礎的な力を養う」「すこやかな体と豊かな心を養う」「自分らしく、物事に積極的に取り組もうとする態度を育てる」「集団生活に必要なルールを理解し友達と協力する力を養う」の4つを掲げ、社会生活に必要な力をつけていきたいと

考えています。

中学部では、学年での授業を中心としながら、学年を越えた縦割りでの授業「作業学習」と「合同体育」の2つを実施しています。

「作業学習」は、陶芸、手芸、張り子、紙すき、縫製、木工の6種目を3年間かけて半期ごとに展開して

います。今年度は、陶芸、手芸、張り子、紙すきを実施します。3学年で4つの班を編成することで生徒同士の交流もあり、他学年の教師とも交流ができています。作業種を多く経験することで、高等部への接続や将来に向けた経験も積んでいきます。

「合同体育」は3年目を迎え、球技などを行う班、サーキットトレーニングを中心に行う班が2つ、感覚運動を中心にした班の4班に分かれて活動しています。学年での体育とは異なるメンバーでの実施となり、運

動を通して他学年との交流を深めています。

中学部の3年間で様々な体験を通して、生徒それぞれの課題、また仲間を思いやる気持ちを大切に、目標達成に向けて取り組んでいます。

高等部

今年度は30名の新1年生を迎え、3学年合わせて78名の生徒とともに、新年度がスタートしました。高等部では以下の4つの教育目標「①豊かな心とたくまし

く生きる力を養う②自ら考え、行動できる力を養う③社会生活に必要な知識・技術・態度を養う④人として豊かな生活を築いていく力を養う」を掲げ、卒業後の自立と社会参加に向けて、日々の教育活動に取り組んでいます。「基礎学習」では、国語、数学を中心に、普段そして将来の生活の中で必要となる知識や能力の習得を目指しています。「作業学習」では、総合作業班、手芸・雑貨班、木工班、陶芸班など、各学年ごとに様々な作業班を設定し、生

徒それぞれの特性に応じた作業内容や環境設定の中で、作業に取り組んでいます。

「仕事とくらし」は創設から3年目を迎え、今年度も卒業後の社会参加に向けて「仕事」および「くらし」の観点から、各班の特性や実態に応じたカリキュラムを組み、必要な力を育てていきます。クラス編成では、今年度より肢体不自由クラスを高等部にも開講しました。肢体不自由生徒の自立活動や日常生活の指導を、より落ち着いた環境で取り組むことができるようにな

ります。また交流授業を活用して、知的クラスの生徒と共に学ぶ時間も確保していきます。生徒一人一人が生きる力を身に付け、将来の社会生活において自分らしい生き方を実現できるよう、しっかりと支援を行っていきます。

令和元年度

進路報告

進路指導部

この春、高等部34名の卒業生が本校を旅立ちました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、卒業式の準備が始まりかけた矢先に休校が決まり、当日の式典も感染拡大防止策を講じながら簡易的な形で行われました。進路先においても自宅待機を余儀なくされる中で新生活をスタートしなければならない卒業生がほとんどでした。6月に入り、現在では各企業、事業所ともに徐々に平常を取り戻しつつあるようです。高等部3年生の実習が開始されたことにもない、各進路先で活躍する卒業生と出会う機会が増えてきました。皆それぞれに頑張っています。

特別支援学校卒業後の進路は、福祉事業所、企業、そして職業訓練校の概ね3つに分類されます。福祉事業所での活動は、作業やレクリエーションなど事業所によって色々な形態があります。本校では高等部2年生から3年生にかけて合計4回の現場実習が行われます。実習に参加する生徒達は、それぞれの事業所のタイムスケジュールに合わせてながら、プログラムを体験していきます。企業就職した生徒は、元年度は7名でした。業種は、流通・サービス、介護補助、清掃業務、工場内での物流管理など様々です。7名とも現場実習を経て、各企業から評価をいただいた結果、採用に至っています。希望職種を選択する際は、個々の生徒の意思確認をしたうえで、それぞれの特性について、学校と家庭とが十分に意見を交換し情報共有することが求められます。現場実習の初期段階では、体験的な取組が主となりますが、日数を重ねるにつれて実践的な取組を経験していきます。同時に、企業側にとって実習は、採用を検討する上での見極め期間となります。

職業訓練校には2名の生徒が進学しました。在学中に開催されるオープンキャンパス等に参加し、体験入校を経て入学試験を受験します。受験に備えて、授業時間や休み時間、放課後の時間を利用して、作文や個人面接の練習を重ねて受験に臨みました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訓練開始が一月以上遅れたようですが、現在では通年どおり職業生活に向けたプログラムを受講しています。

34名の卒業生の進路はそれぞれ異なりますが、在学中、生徒達は、それぞれ卒業後の生活を見据えながら現場実習をとおして自身を見つめ、一つ一つハードルを乗り越えて

きました。一方、進路が決定されていく過程において、学校・家庭・関係諸機関（福祉事業所、企業等）の間で生徒個々の特性や配慮事項に関する共通理解が進められます。どんなことが得意で、どういう時に気持ちが安定しているか。有効なコミュニケーションの方法や必要とされる手立て等を支援者同士が共通認識しあうことは、進路指導を進めるうえで不可欠であり、より高い精度が求められるところです。

今年度の高等部3年生は22名です。生徒個々の特性を支援者同士で十分に共通理解しながら、進路指導の充実に努めていきたいと考えています。